



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト 通信



Event News

7月

2日(土)

若手女性研究者の研究力向上支援のための科学英語論文執筆セミナー
「効果的な英語論文の書き方」第2回

時間：9:00~12:00
場所：岐阜大学 サテライトキャンパス 多目的講義室(中)

19日(火)

アピ(株) シンポジウム「女性の活躍と地方創生 ~人を育てる企業・地域を育てる企業~」

時間：15:00~17:30
場所：岐阜市文化センター 小劇場
基調講演：折井 雅子氏 (サントリーウエルネス株式会社 専務取締役)
事例発表：野々垣 孝彦氏 (アピ株式会社 代表取締役社長)

パネルディスカッション：「女性の活躍と地方創生」
モデレーター 林 正子氏 岐阜大学 副学長(多様性人材活力推進担当)・男女共同参画推進室長
パネリスト 折井 雅子氏 鈴木 裕子氏 岐阜県 健康福祉部 子ども・女性局長 原 英彰氏 岐阜薬科大学 副学長 森田 順子氏 株式会社 岐阜放送 代表取締役社長

28日(木) 平成27年度連携型共同研究成果報告会

民間企業、地方自治体、他大学などとのアカデミックな交流を深め、女性研究者の活躍による地域活性化を目指すため、平成27年度に採択された12件の連携型共同研究の成果を広く発信します。
時間：15:30~17:55 場所：岐阜大学 全学共通教育棟1階 アクティブ・ラーニング教室

8月

1日(月)~10日(水) 夏期休暇期間学童保育トライアル ☆清流の国で夏休み留学!! ☆シ

学童保育で、イタリア語・フランス語を学ぶチャンス!! 夏休みの自由研究に役立つイベントもあります!!
対象児童：岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社に所属する女性研究者の子ども
時間：8:15 受付開始~9:30 プログラム開始 / 17:00 プログラム終了~17:45までにお迎え
場所：岐阜大学 柳戸会館1階集会所

29日(月)・30日(火) 2日間集中英語プレゼンテーションセミナー

時間：9:00~17:00 (間1時間お昼休憩含む) 場所：岐阜大学 学生会館3階 第二共用会議室
対象：岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社に所属する女性研究者 6名程度
募集期間：~7月10日(日)

8日(木) 岐女大 研究倫理研修会

講師：児島 明佳氏 (日本学術振興会 研究事業課長兼研究倫理推進室長)
時間：15:00~ 場所：岐阜女子大学

21日(水) 岐薬大 リーダーシップ研修「今こそ女性研究者の活躍の時」

講師：深見希代子氏 (東京薬科大学生命科学部ゲノム病態医学研究室・教授)
時間：16:00~17:30 場所：大学院講義室

30日(金) 岐薬大 フォーラム「『女性が輝く岐阜』に向けての薬科大学の役割—女性薬剤師の就業支援と両立支援(仮)」

講師：東村 博子氏 (名古屋大学 男女共同参画推進室長・大学院生命農学研究科教授)
時間：未定 場所：岐阜薬科大学本部 第二講義室

9月

【発行】 国立大学法人 岐阜大学 岐阜薬科大学 岐阜女子大学 アピ株式会社

【問い合わせ先】 岐阜大学男女共同参画推進室
TEL: 058-293-3378 FAX: 058-293-3396 Email: sankaku@gifu-u.ac.jp
本誌は、「清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト」 URL <https://diversity.gifu-u.ac.jp> ホームページ上で公開しています。

1 平成28年度 連携型共同研究助成採択課題決定!

連携型共同研究助成は本プロジェクトの要となる取り組みです。
平成28年度も連携4機関で合計12件が採択されました。

申請者	研究課題	共同研究者
柴田 奈緒美 岐阜大学 教育学部・助教	学校給食におけるアレルギー対応食の 多様化に向けた試み	大場 君枝 岐阜女子大学 家政学部・助教
鈴木 紀子 岐阜大学 大学院医学系研究科・学術研究補佐員	悪性度や治療抵抗性の高い子宮頸癌は フェロトーシス誘導で克服できるか	永澤 秀子 岐阜薬科大学 薬化学研究室・教授 森重 健一郎 岐阜大学 大学院医学系研究科・教授 平山 祐 岐阜薬科大学 薬化学研究室・助教 森美奈子 岐阜大学 医学部附属病院・医員
稲垣 瑞穂 岐阜大学 応用生物科学部・助教	ヒト大腸フローラモデルを用いた 岐阜特産物と腸内フローラに関する基盤研究	西村 梢 岐阜女子大学 家政学部・助教
タンマウオン マナスイカン 岐阜大学 応用生物科学部・助教	仙寿菜のベタシアニン類色素保持に 最適な流通および加工調理法の提案	笠井 恵里 岐阜女子大学 家政学部・講師
柴田 早苗 岐阜大学 応用生物科学部・准教授	味覚センサーによる犬の味覚評価を軸とした プロポリス抽出残渣含有包帯の開発	小野 理沙子 岐阜薬科大学 製剤学研究室・助教 荒木 陽子 アピ株式会社 長良川リサーチセンター・製品開発顧問 川部 美史 岐阜大学 応用生物科学部・助教 高島 諭 岐阜大学 応用生物科学部・助教
小山 真紀 岐阜大学 流域圏科学研究センター・准教授	研究領域を横断する対話の場と 協働に基づく「生きづらさ学」の構築	大崎 友記子 岐阜女子大学 家政学部・准教授 船越 高樹 岐阜大学 障害学生支援室・特任助教 相原 征代 岐阜大学 男女共同参画推進室・特任助教
寺町 ひとみ 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・教授	多職種連携による薬局薬剤師の 地域住民への健康サポートに関する研究	川上 ちひろ 岐阜大学 医学教育開発研究センター・助教 伊野 陽子 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室・講師 堺 千穂 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室・助教 詔 知也 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・講師 野口 義祐 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・助教
曾田 翠 岐阜薬科大学 薬物動態学研究室・助教	頸部椎間関節痛に対する 脊髄神経後枝内側枝高周波熱凝固術が 全身性サイトカインに及ぼす影響	田辺 久美子 岐阜大学 医学部附属病院・准教授
井戸 章子 岐阜薬科大学 衛生学研究室・助教	新規皮膚感作性試験法の確立と 天然物の皮膚感作性評価	楳本 恭子 アピ株式会社 長良川リサーチセンター・主任
齋藤 陽子 岐阜女子大学 文化創造学部・准教授	新たな学びの空間の在り方に関する研究	本田 法子 アピ株式会社 品質保証部・課長代理
新井 靖子 アピ株式会社 長良川リサーチセンター・研究員	ローヤルゼリーのアレルギー性に関する 基礎的研究	清島 真理子 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 高橋 智子 岐阜大学 医学部附属病院・助教 秦 健敏 アピ株式会社 長良川リサーチセンター・主任
森本 智美 アピ株式会社 長良川リサーチセンター・主任	プロポリスの口腔内細菌に対する基礎的研究	田中 香お里 岐阜大学 大学院連合創薬医療情報研究科・教授 田澤 茂実 アピ株式会社 長良川リサーチセンター・係長

2 平成27年度 連携型共同研究成果紹介

平成27年度連携型共同研究に採択された研究代表者のお2人にお話を伺いました。

セイヨウミツバチの巣箱が寄生蛾に探索・発見される機構の解明

研究代表者 岡本 朋子 岐阜大学 応用生物科学部 助教

共同研究者 坂本彩(アピ株式会社 養蜂部ミツバチ科 技術係主任)・坂本亮太(岐阜大学 応用生物科学部 学術研究員)

研究の目的

セイヨウミツバチやニホンミツバチには、メイガ科ハチノスツリガ *Galleria mellonella* が寄生する。ハチノスツリガのメス成虫は、ミツバチの巣を発見・侵入した後に巣内で産卵する。卵から孵化した幼虫は巣をエサとするため、巣全体の健全な成長を妨げるだけでなく、採蜜のために一時保管しておく巣を崩壊させ、経済的に大きな損失を与える。本研究では、ハチノスツリガがセイヨウミツバチの巣を発見する機構を明らかにし、有効な侵入防止策の提言を行うことを目的とした。

◆どのような結論が得られましたか？

ハチノスツリガを用いた行動実験を行うことで、ハチノスツリガは巣を探索する際に「巣の匂い」を用いていることが明らかになりました。ハチノスツリガを誘引する匂い物質を明らかにするため巣の匂いを捕集しガスクロマトグラフ質量分析計で分析したところ、蜂の巣は巣ごとに匂いが大きく異なることがわかりました。ハチノスツリガは匂い物質で巣を見つけ出すだけでなく、様々な匂いの情報を用いて巣の状態を判断している可能性も考えられます。現在さらに解析と実験を進めてハチノスツリガの蜂の巣認識の実態解明を目指しています。

◆なぜこの課題を選ばれたのですか？以前から専門的に研究されていたテーマだったのでしょうか？

専門は化学生態学で、これまで主に、花の匂いの生態的役割や進化について研究をしてきました。岐阜大学の応用生物科学部に助教として着任してからは、いかに自身の経験や技術を活かしながら地域に貢献することができるかを考えるようになりました。共同研究者の坂本亮太さんは生き物の生態だけでなく岐阜県の産業についても大変詳しいため、相談を持ちかけたところ、養蜂業に注目してはとアドバイスをいただきました。また、アピ株式会社の養蜂ミツバチ部の坂本彩さんを交え、議論を深めた上で課題を決定しました。

◆研究者である上で女性であることのメリット・デメリットは何ですか？またそのデメリット克服のために、大学や政府に希望する支援はどのようなものですか？

本来、性によって研究者という立場にメリット・デメリットがあってはならないものだと思います。しかし実際には、多くの女性研究者は出産による一時的な研究の中断や、育児による研究時間の短縮を余儀なくされています。私の研究では、ある程度まとまった期間(1週間以上)、遠方の調査地でデータを取るということもありますが、子どもを持てばこのような調査は難しくなり、積み重ねてきた研究テーマを変更せざるを得ないのではと不安を感じています。また、同様の理由で海外の学会などに参加ができなくなった女性研究者も多いかと思っています。女性研究者が調査や学会に出かける際に、子どもと一緒に連れていくための支援や、まとまった期間子どもを安心して預けられるような場所の確保などが急務の課題ではないでしょうか。

女子大学生の首尾一貫感覚 (SOC) の特徴 —女性の活躍を促進する心理的要因の検討—

研究代表者 佐々木 恵理 岐阜女子大学 文化創造学部 講師

共同研究者 山本眞由美(岐阜大学 保健管理センター・教授)・西尾彰泰(岐阜大学 保健管理センター・准教授)・堀田亮(岐阜大学 保健管理センター・助教)・磯村有希(岐阜大学 保健管理センター・非常勤臨床心理士)

研究の目的

女性活躍のための人間力の1つとして、首尾一貫感覚 (Sense of Coherence; 以下 SOC) に着目した。SOCとは、3つの要素から構成されている(①把握可能感: 周囲の状況や自分がすべきことが分かるという感覚、②処理可能感: 自分や他者の力を信じ、それらを用いて物事に対処できるという感覚、③意味感: 周囲の環境も含めた自分の人生に対する関心や希望の感覚)。しかし、大学生を対象としたSOCの検討は不足している。本研究では、①大学生のSOCの実態と基本属性、生活習慣、精神的健康度との関連、②大学生のSOCの縦断的变化について検討し、女性の心理的資源の特徴を明らかにし、女性活躍推進に寄与する大学の人間育成教育の科学的根拠を示すこととした。

◆どのような結論が得られましたか？

大学生のSOCの実態として、所属学部や精神的健康度による関連が示唆されましたが、生活習慣による差異はみられませんでした。SOCは、男性より女性の方が高く、新入学時に比べ3年次にかけて低下していました。慎重な解釈が必要ですが、女性の活躍を推進する際に、SOCの視点からは女性の方に強みがあるとうかがえました。これらをもとに、女性の活躍を促進する視点からも大学教育の中で、学部の特徴を見極め成功体験を積ませる教育内容、プログラムの充実を図っていくことが有用であると考えました。

◆これ以前にも既にPIのご経験はありましたか？また、今回の研究でPI経験を積んだことにより研究者として一層成長されたという実感がありますか？

個人研究や研究分担者の経験のみで中心的役割を経験したことがありませんでした。今回の共同研究では、経験豊かな女性研究者からメンター指導を受けながら研究を遂行する機会を得たことで、それらに必要なスキルや教育研究活動への意識・意欲の向上につながりました。特に、2人の女性の共同研究者からは、研究時間を確保する工夫を学び、女性研究者のモデルとして、具体的なノウハウを得ることができました。この時期に共同研究者の先生方と一緒に学ぶ機会を持てたことは、私の研究人生において非常に大きな転機となりました。

◆この共同研究での経験を今後どのように発展させていきたいですか？

今後は、論文執筆を継続し、国内外の学会で報告できるように、共同研究者らと継続して研究を進めています。また女性研究者としてこの共同研究で得た経験を、学内の女性教員や女子学生・院生のロールモデルとなるように教育研究活動に還元し、活かしていくために日々努力を続けたいと思います。



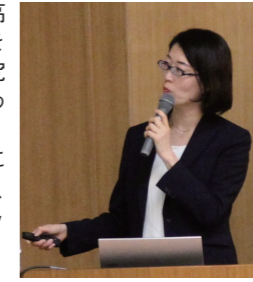
研究打ち合わせ時の様子

3 平成28年4月～6月の主な活動

4/12

岐阜大 トップマネジメントセミナー

講師に文部科学省高等教育局企画官(併)高等教育企画課高等教育政策室長の伊藤史恵氏を迎え、「高等教育政策の動向について—女性研究者の活躍推進も視座に—」と題して講演が行われました。



文部科学省の現場で活躍する講師の伊藤氏による講演会には、岐阜大学の教職員をはじめ、連携機関から教職員や研究者、経営を担うトップマネージャーら約120人が参加しました。

森脇久隆岐阜大学長による開会の挨拶の後、伊藤氏は豊富な統計データを基に、高等教育政策の現状、政策の中での女性研究者活躍推進事業の占める位置、岐阜大学に期待することなどを分かりやすく説明し、聴衆は熱心に聞き入っていました。聴講者からは「文部科学省の最新の政策動向を整理することができ、その中での岐阜大学の位置づけが明確になった」、「企業として参画する際、どのような貢献方法があるか具体的にご教示いただき、参考になった」などの感想が寄せられ、非常に有意義なセミナーとなりました。

5/27

岐阜大 ロールモデル講演会

文化人類学者の白石さや氏によるロールモデル講演会が開催されました。白石氏は、アンダーソンの名著『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』の日本語訳で有名ですが、本講演会は「私の生活を学問する—子育てで研究に活かしながら」と題され、氏のこれまでの人生の中で、家族や身近な人々との交流が研究の中でどう活かされてきたかということに焦点を絞って行われました。



産後の困難な時期も、育児がキャリア形成の邪魔になると考えるのはつまらないことだと、1人研究を続けた氏のお話は、当人の意欲と能力さえあれば研究者であり続けることができるのだということを若い研究者にも示していただきました。

6/9

岐女大 ロールモデル講演会 第1回

岐阜女子大学においてロールモデル講演会「『サザエさん』から学ぶ三世同居のススメ」が開催されました。講師は、元岐阜市職員で、実母の介護を経て、現在は実父と夫、子どもの三世同居で主婦・自営業を営んでいるという春日理恵氏。

岐阜市職員時代に戸籍課に勤務した経験を元に、今日の家族のあり方や近所づきあいの変貌を、漫画『サザエさん』の家族観に当てはめながらわかりやすくお話しくださしました。

高齢者自身が自立して、家族と離れて暮らしたいと考え、若い世代も煩わしい人間関係から解放されたいと願う今日の社会において、それでもやはり三世同居のメリットはあるのではないかと考えるよい機会となりました。



6/13

岐薬大 シンポジウム

岐阜薬科大学でシンポジウム「ライフイベントを乗り越えて—女性研究者が研究を続ける環境とは」を開催しました。基調講演として厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課長の小林洋子氏と愛知大学地域政策学部教授の功刀由紀子氏のお話を伺い、後半は岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学の教員とアピ株式会社の研究者代表によるパネルディスカッションが行われました。



厚生労働省の小林氏からは、最新かつ詳細なデータを提示しつつ、女性活躍推進法が施行された現在の女性の就業事情と課題についてお話いただきました。今まで文部科学省職員のお話に慣れてきた大学関係者には、新鮮な視点からの見解を伺う機会となりました。

愛知大学の功刀氏には、その人生とキャリアの中で、結婚・出産・転職など岐路に立つ度に氏が下してきた決断について、生々しく語っていただきました。氏がアカデミアにこだわりつつ、理系の学部をもたない大学で教鞭をとることになったとき、「視野を広く持てば、『行政』の分野でも理系の知識とセンスを活かして活躍できると発想の転換を果たした過程は多くの聴講者に勇気を与えてくれました。

パネルディスカッションでは岐阜薬科大学の永澤教授がモデレーターをつとめ、岐阜大から安藤・小山両氏、岐薬大から伊野氏、岐女大から伊佐氏、そしてアピ株から秦氏・丸山氏の計6名の若手研究者にパネルリストとしてご登壇いただき、「研究者」のワーク・ライフ・バランス実現のために何ができるか、何をすべきかについて本音の議論が繰り広げられました。

6/19

若手女性研究者の研究力向上支援のための科学英語論文執筆セミナー 効果的な英語論文の書き方 第1回

岐阜大学サテライトキャンパスにおいて、「効果的な英語論文の書き方」の第1回を開催しました。



岐女大 ダイバーシティ推進室を開設しました!

理事長室の真向かいにダイバーシティ推進室を開設しました。

